



日南ロータリークラブ

~NICHINAN ROTARY CLUB since 1954 ~



よいことのために手を繋ぎあおう

2025-26年度クラブスローガン「臥薪嘗胆」

WEEKLY REPORT NO.15

第 3442 回 例会		開催日：2025年11月5日（水）	点鐘12:45
国歌	君が代	会員数	33 MU 2
ロータリーソング	奉仕の理想	出席免除	9(5) 欠席 4
4つのテスト	西田誠悟君	HC出席	22 出席 24
ゲスト		出席率	85.17% 先取MU 黒武者、村社
ビジター		出席免除	落丸、清水、日高、古澤、渡邊
		欠席者	稲垣、榎木田、竹井（克）、豊田
例会行事	結婚誕生卓話		

会長時間（斎藤篤史会長）

11月は「ロータリー財団月間」です。ロータリーの活動を語るうえで、この財団の存在は欠かすことができません。しかしながら、その役割や仕組み、意義について、意外と深く知られていない部分が多いのではないかと思います。「財団」という言葉から、堅い印象を受ける方もいらっしゃるかもしれません。しかしロータリー財団は、単なる資金管理の組織ではありません。ロータリーの理念を具体的な形にし、世界と地域のために“善を実行する力”を生み出す仕組みです。この時間では、財団の歴史や目的に触れながら、「なぜロータリー財団が必要なのか」「なぜ私たちが関わるべきなのか」その本質を皆さまで一緒に考えたいと思います。ロータリー財団（The Rotary Foundation）は、1917年、ポール・ハリスが「世界でよいことをするための基金を設立しよう」と提案したことから始まりました。わずか26ドル50セントの寄付からスタートした財団は、現在、世界最大級の民間人道支援基金のひとつへと成長しています。財団の使命はとてもシンプルでありながら深いものです。

その使命は「世界でよいことをしよう（Doing Good in the World）」この言葉は、財団のすべてを象徴しています。財団は、お金を集めることが目的ではありません。人道的奉仕を実現し、平和な世界の実現に貢献するための手段として存在しています。ロータリー財団は、ロータリーの中核をなす「奉仕の哲学」を実現するための財団です。その理念は、ロータリーの目的と一致し、長きにわたって変わらず受け継がれています。財団の活動の根底には、次の考え方があります。人類は互いに理解し合える教育や保健、生活環境を整えば、紛争や貧困は減らせる、世界平和は机上の理論

ではなく、実践の積み重ねから生まれる財団は、この信念に基づき「持続可能な変化」を目指しています。一時的な支援ではなく、人々が自立し、地域が成長していくプロジェクトを支援しています。ロータリー財団の活動は、単なる慈善活動や寄付とは異なり、戦略的で継続性のある支援を特徴としています。特に、財団は「重点分野 (Areas of Focus)」を定め、世界中のロータリークラブが共通の方向性を持てるようにしています。その重点分野は次の7つです。・平和の推進・疾病との闘い・水と衛生・母子の健康・教育の支援・地域経済の発展・環境の保全。この7つを見ると、ロータリーが目指しているのは単なる支援ではなく、人々が自立し、希望ある未来を築くための基盤づくりだということがわかります。ここに「ロータリー財団の哲学」が表れています。ロータリー財団を語るうえで避けて通れないのが「寄付の仕組み」です。ロータリー財団は、世界中の会員からの寄付によって支えられています。しかし、「寄付したお金はどこへ行くのか?」「何に使われているのか?」という疑問を持つ方も多いはずです。財団の寄付には主に次の3つがあります。・年次基金 (Annual Fund) → 最も基本となる寄付。地域や世界の奉仕プロジェクトを支える原資。・ポリオプラス (PolioPlus) → 世界ポリオ根絶活動のための寄付。・恒久基金 (Endowment Fund) → 財団の未来を支えるための長期基金。特に重要なのが年次基金です。この寄付は3年後に、地区とグローバル資金として半分ずつ戻ってくる仕組みになっています (通称: SHARE 制度)。つまり、財団への寄付「どこか遠くへ消えるお金ではなく、未来のクラブ活動と地域のために戻ってくる」なのです。財団の仕組みの中で、多くのクラブに直接関わるのが補助金制度 (Grant) です。補助金には主に2種類あります。地区補助金 (District Grant): 地域の課題を解決する小・中規模のプロジェクトに活用可能グローバル補助金 (Global Grant): 国際的規模の人道支援プロジェクトに活用可能 (持続可能性が必須) 補助金制度は「財団の資金を地域や世界のために活用する、最前線の仕組み」です。この制度を理解し活用することで、クラブの可能性は広がります。ロータリー財団の活動の中で、世界的に最も知られている取り組みの一つがポリオ根絶運動 (Polio Eradication) です。1985年、ロータリーは「世界からポリオをなくす」という大胆な目標を掲げました。当時、ポリオは世界125カ国に広がり、年間で35万人以上の子どもたちが感染していました。それが現在では、残る常在国はわずか2カ国 (アフガニスタン・パキスタン) のみとなりました。この成果は、単なる医療支援の結果ではありません。ロータリーが40年にわたり、ワクチン提供、啓発活動、監視体制の構築、現地支援者の育成といった地道な活動を続けてきた結果です。ポリオが終わる時、それは人類が一つの感染症を歴史から消し去る瞬間です。そこには、ロータリーの信念が深く刻まれています。ロータリー財団は「お金を集める組織」ではありません。「善意を行動に変える仕組み」を持つ組織です。財団の価値は、単に寄付額では測れません。財団の本当の価値は、・希望を届ける力・人を信じる力・継続する力にあります。奉仕は一人ではできません。思いだけでも

実現しません。財団は、行動のためのエンジンであり、奉仕のための基盤なのです。ロータリー財団の働きは、派手ではありません。しかし、その働きは確実に人の人生を変えています。財団を支えているのは誰か、それは、私たち一人ひとりのロータリアンです。寄付は金額の問題ではありません。「少しでも誰かの役に立ちたい」という心の表現です。財団は、世界のどこかで、今も子どもたちを守り、教育を支え、医療を届けています。それは、静かで、しかし強い力です。最後に、財団を象徴するこの言葉で締めくくりたいと思います。Doing Good in the World「世界で良いことをしよう。」この精神を胸に、私たち一人ひとりが行動することこそ、ロータリーそのものなのだと思います。

幹事報告（菊池希樹幹事）

1. 日本事務局より、11月のロータリーレートのお知らせが届いております。今月のレートは、1\$ = 154円 となっております。
2. 国際ロータリー第2730地区西本ガバナーより、先般台湾で発生しました台風18号による花蓮光復馬太安溪土砂崩れ支援の要請が届いております。
3. 一般財団法人比国育英会バギオ基金よりバギオだより11月号が届いております
4. ロータリー財団月間 リソースのご案内が届いております。
5. 日南市企業連携協議会より講演会の案内が届いております。70周年記念事業において司会進行を務めていただきました、UMK テレビ宮崎代表取締役榎木田朱美氏の講演会が行われます。興味のある方はぜひお越しくださいとのことです。

委員会報告（社会奉仕委員会井野畑善順君）

こども食堂に寄付したお米 150Kg の配達がつべて完了いたしましたのでお伝えします

結婚誕生卓話（鬼束忠男君）

11月8日で、75歳になります。ロータリー歴18年です。毎回同じ事ですが、1950年に起こった出来事として、民間放送が開始される。朝鮮戦争が始まる。金閣寺が炎上する。千円札（聖徳太子像）が発行される等があり。75歳の男性は、日本医師会の決議では、「後期高齢者」に該当するという。日本の平均余命は2021年時点で、男性が81.09歳、女性が87.13歳、男性の平均寿命はスウェーデン、スイスなどに次ぐ世界第6位、女性は世界第一の長寿国です。又、健康寿命は、男性が72.57歳、女性が75.45歳です。その健康寿命とは、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活ができる期間、心身ともに自立した状態で生活できる期間ということです。哲学者ショーペンハウアーは、「人間も一生の出発点から遠ざかるにつれて、時はますます早く過ぎてゆく」と同じ1年でも50歳の人、5歳の人よりも10倍早く感じるという。だから「老人にとって時は常にあまりにも早足で一日一日が矢のように過ぎていく」といっています。本当に一日、又一年が早く感じてなりません。「生老病死」人が生きる上で避けられない。生まれること、老いること、病気にかかること、死ぬことと、いう根本的な4つの苦しみ、また思うようにならないこの総称、仏教では、この

四苦は、人間がさけられない運命であり人生そのものであると説いています。75歳になると、周りの友人、知人がなくなっていますが、先日、我が家の家系図をつくりました。200年まえに一番長生きは90歳でした。人生には、坂がある、上がり坂、下り坂、そして突然やってくる。まさかの坂という言葉です。人生に順調な時「上がり坂」困難な時「下り坂」そして全く予期出来ない事が起こる時「まさかの坂」魔の坂なのです。「うつむいていたら虹を見つけることはできない」とは、喜劇王チャップリンの言葉である。人は試練に直面した時、現実から目を背けてしまうことがある。だが、そういう時こそ胸を張り信念の道を歩み続ける人が勝利の虹を仰ぐことができるという。やる気の源としてある本に、「経営の神様」の異名を持つ松下幸之助氏は、現在のパナソニックホールディングスを一代で築きあげました。さらに、出版事業としてPHP研究所の設立、晩年には政治家育成のための松下政経塾を立ち上げたことでも有名です。松下氏が九十歳を過ぎたころ、当時の長寿記録は百二十四歳でしたが、氏は「百三十歳まで生きてみよか。まだまだ大きなことが出来る」と語ったといわれています。その後、九十四歳で亡くなりましたが、「生命の尽きる瞬間までなすべきことをなしつつ生きていきたい」という言葉を体現するような人生を送りました。このような人生を送ることができた要因として①常に目標掲げる②挑戦する心を忘れない③困難に負けずにやり続ける④自己効力感を強く持つこと、などが挙げられるのではないのでしょうか。今、自分がなすべきことは何なのか、果敢に物事にチャレンジしているか、諦めてはいないかなど、冷静に振り返ってみたいものです。本日は、有難う御座いました。

結婚誕生卓話（築瀬敦君）

ちょうど31年前の今日、ここ、シーズンにて結婚式をあげました。31年たったということで、ホントに長い時間を二人で過ごしてきたんだと改めて思います。3人の息子たちも、最後の一人が今度の3月でようやく自立してくれます。3人3様の兄弟ですが、とても兄弟仲がよく素直に育ってくれたなあと嫁に感謝です。しかし、私の足のすねは息子たちにかじられすぎて割りばしになってしまいました。話は変わりますが、先日、両親と話をしていたときに、私たち夫婦があまり県北に行ったことがない、椎葉や五ヶ瀬に行ってみたいと言ったらじゃあ4人で行くかということになりました。以前は、自分で運転して日帰りで九州一周くらい平気でしていた父ですが、やはり寄る年波には勝てず、私の運転で行くことになりました。日向で高速を降りて椎葉に向かいました。目的地は鶴富屋敷です。途中、土砂崩れで工事中の道のう回路に回ったのですが、いわゆる旧道でとんでもなく狭く、車1台がやっと通る道を進み、国の重要文化財、鶴富屋敷のお出迎えで到着しました。屋敷は、平屋の建物で、神秘的な雰囲気醸し出していました。古民家の、土間、囲炉裏、かまどといった昔ながらのづくりが大好きな嫁は、目をキラキラさせて見ていました。鶴富屋敷を後にして、国の天然記念物の八村杉やむらすぎという、15階建ビルよりも高くそびえ立つス

ギを見に行きました。十根川神社という神社の境内にある巨木で、樹高 54.4m、根回り 19m、目通り幹回り 13.3m とされていますが、これは 1935 年時点だそうです。国の代表的な巨樹として早いうちから評価されて、1935 年に国の天然記念物に指定されたそうです。下から見てものすごくまっすぐ伸びた杉の木でした。帰りに、五ヶ瀬ワイナリーに行き、お弁当を食べワインを買って帰ってきました。

結婚誕生卓話（土屋昭次君）

本日はお祝いをいただきありがとうございます。今夜はスーパームーンが見えるとの事でしたが、あいにくの天候との事ですので残念ながらはっきりと見るのは難しいのではないかと思います。さて本日はロータリークラブ出席についてお話ししようと思っておりましたが時間がないので、皆様にはロータリーの定款、規定、細則、ならびに本日配布した資料をご確認いただければと思います。また先日 LINE 上にてご指摘のありました出席免除の方が出席された際や MU 対象の行事に出席された際の出席のカウントや出席率につきましては、特に幹事を中心にロータリーの定款、規定、細則をしっかりと確認をされてください。また会員の皆様向けには情報集会等で情報発信していただければと思いますし、こういった点を中心に協議するクラブフォーラムの開催もぜひ行っていただければと思います。本日はお祝いをいただきありがとうございます。

スマイル

竹井崇利君：第 1 例会、ネクタイ着用を忘れてましたのでスマイルします。

田島逸男君：2 週間連続して欠席するとこんなことです！ネクタイ着用を失念しました。又、今日も早退させていただきます。すみません。



日南RC事務局	〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten堀川ビル2階 創客創人センター内
	TEL：0987-22-3363 FAX：0987-22-3515
2025-2026年度	会長：斎藤篤史 副会長：入中英雄 幹事：菊池希樹 雑誌広報委員長：西島元利
	例会：毎週水曜日 12:45~13:30 会場：ホテルシーズン日南（TEL：0987-22-5151）

※例会内でお話いただいた内容の原稿は soumu-nishijima@aisenkai-nichinan.jp まで送信ください。